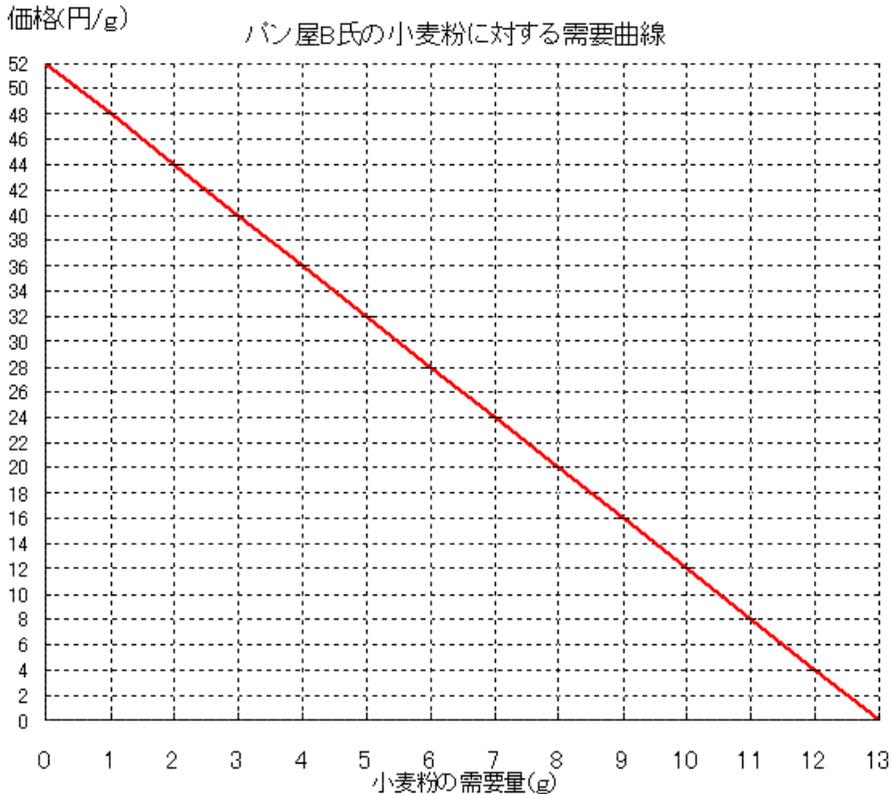


下図の需要曲線をみながら、以下の問いに答えなさい。右下がりの直線が、パン屋B氏の小麦粉に対する需要曲線である。小麦粉1g当たりの価格が、40円から20円に下落したとする。この時、B氏の小麦粉需要量は、何g増加するか、または減少するか。



【解説】

解説ビデオクリップ



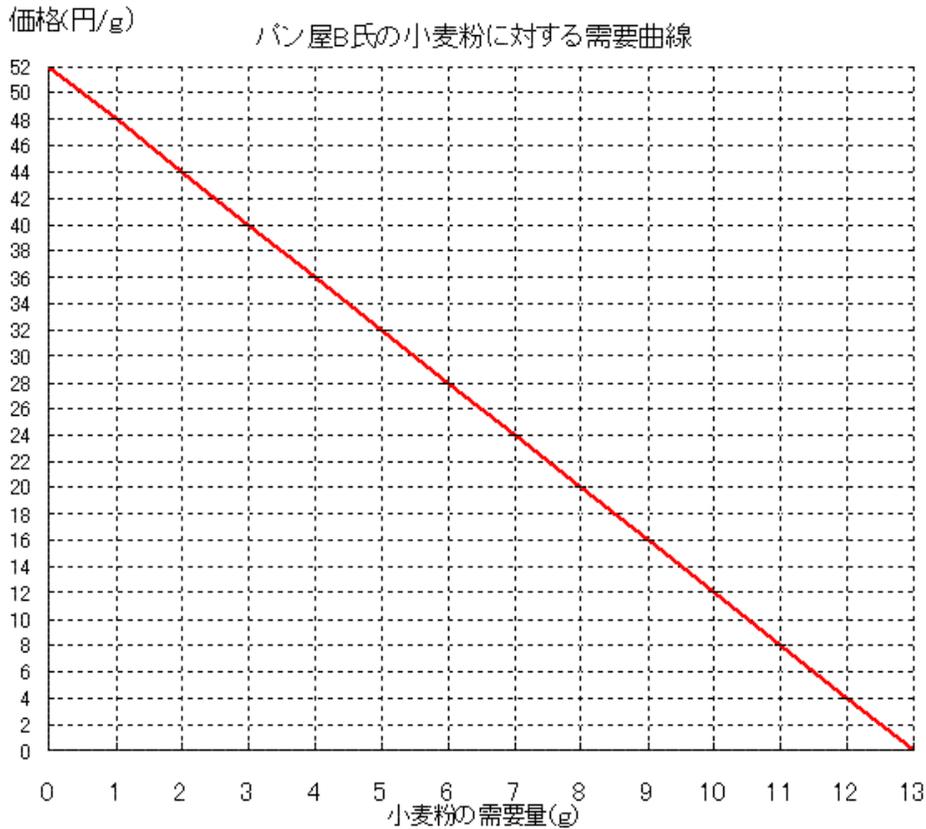
40 円の水準での価格線 (Price Curve) と需要曲線 (Demand Curve) が交わる場所は、3gのところ。20 円の水準での価格線と需要曲線が交わる場所は、8gのところ。よって、5gだけ需要量が増えた。

👉 自学自習: ミクロ経済学入門

【関連問題】

年      月      日

下図の需要曲線をみながら、以下の問いに答えなさい。右下がりの直線が、パン屋B氏の小麦粉に対する需要曲線である。小麦粉 1gあたりの価格が 32 円の時、B氏の総支出はいくらか。また、小麦粉 1gあたりの価格が 8 円の時、B氏の総支出はいくらか。



【解説】

解説ビデオクリップ 

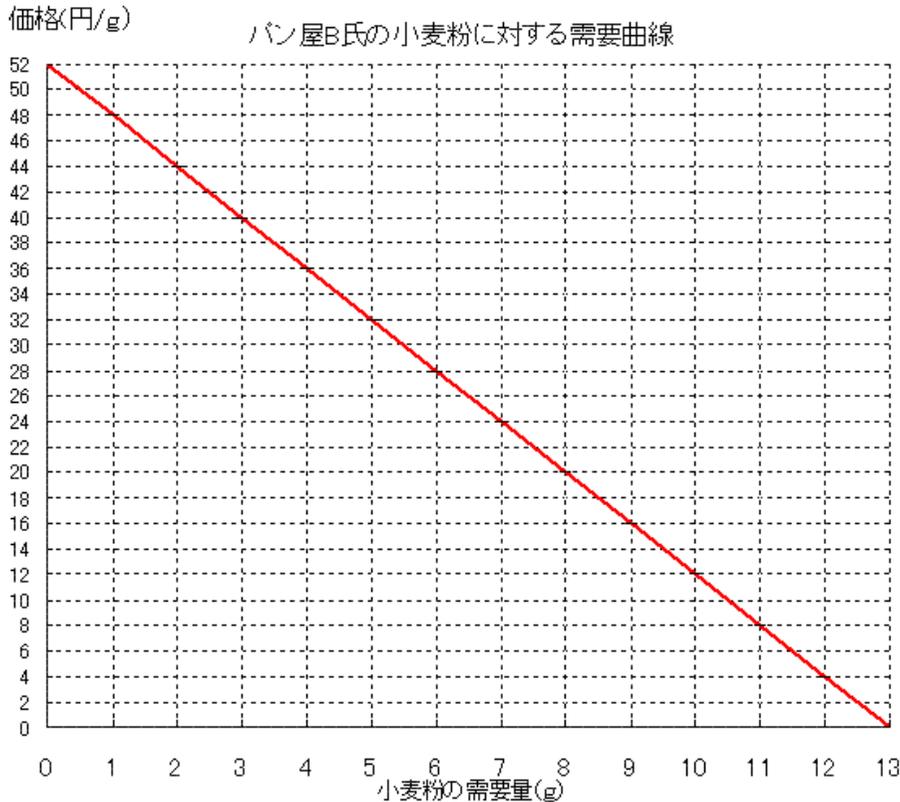
需要曲線から、32 円の時々の需要量は 5gとわかる。よって、総支出 (Total Spending) =  $32 \times 5 = 160$  (円)。  
 また、需要曲線から、8 円の時々の需要量は 11gとわかる。よって、総支出 =  $8 \times 11 = 88$  (円)。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年      月      日

下図の需要曲線をみながら、以下の問いに答えなさい。右下がりの直線が、パン屋B氏の小麦粉に対する需要曲線である。小麦粉 1gを需要しようとする時、B氏が支払ってもよいと考える最高価格はいくらか。また、小麦粉 10gを需要しようとする時、B氏が支払ってもよいと考える最高価格はいくらか。



【解説】

解説ビデオクリップ

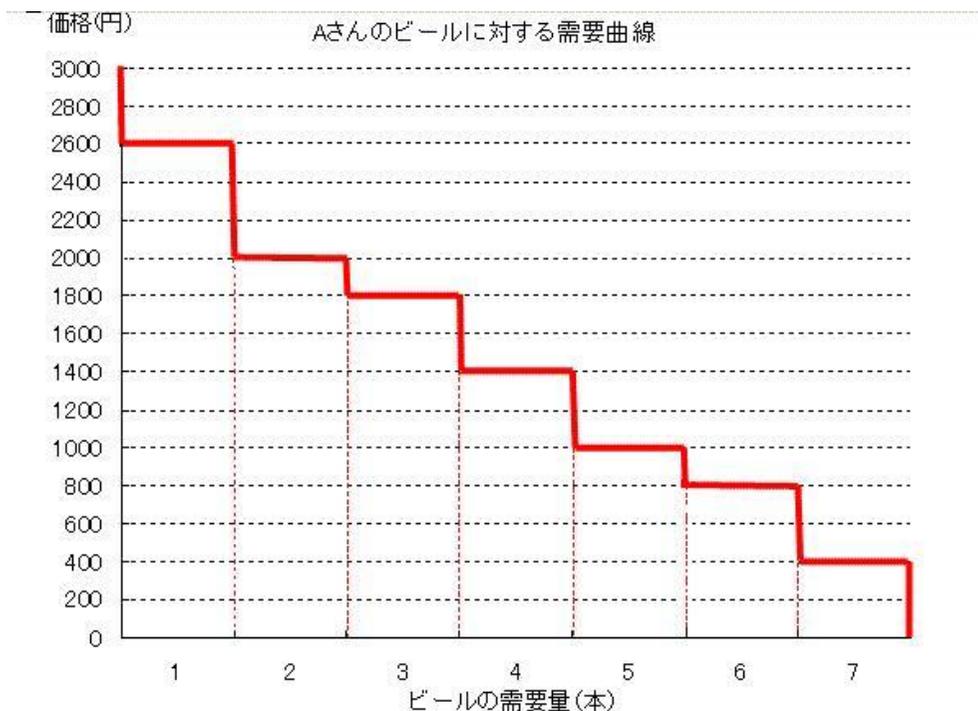
各需要量における価格(需要価格と呼ぶ)が、支払ってもよいと考える最高価格である。よって、小麦粉 1gを需要しようとする時、B氏が支払ってもよいと考える最高価格は 48 円、小麦粉 10gを需要しようとする時、B氏が支払ってもよいと考える最高価格は 12 円。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年      月      日

下図の需要曲線をみながら、以下の問いに答えなさい。折れ線グラフが、Aさんのビールに対する需要曲線である。今、Aさんのビール 2 本目に対する限界効用はいくらか。また、6 本目に対する限界効用（貨幣表示）はいくらか。



【解説】

解説ビデオクリップ 

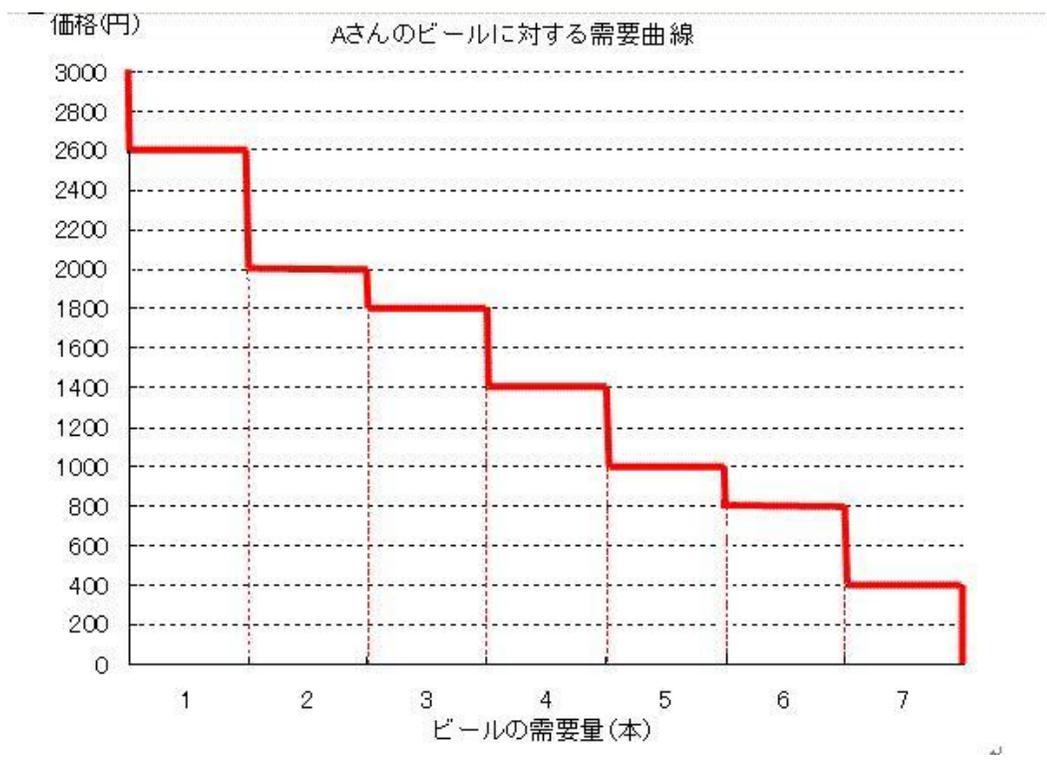
問題にある需要曲線における限界効用 (Marginal Utility) (貨幣表示)とは、それぞれの棒グラフの高さになる。そこで、2 本目と 6 本目の棒グラフの高さを適切に読みとればよい。よって、Aさんのビール 2 本目に対する限界効用は 2,000 円、6 本目に対する限界効用は 800 円。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年      月      日

下図の需要曲線をみながら、以下の問いに答えなさい。折れ線グラフが、Aさんのビールに対する需要曲線である。今、ビールの価格が1本 1,800 円である時、Aさんはビールを何本需要するか。また、ビールを需要したことによるAさんの消費者余剰はいくらか。



【解説】

解説ビデオクリップ 

1,800 円の水準での価格線と需要曲線が交わる場所は、需要量が 3 本 である。よって消費者余剰 (Consumer Surplus) = 総効用 - 総支出 = (1 本目の限界効用 + 2 本目の限界効用 + 3 本目の限界効用) - (1 本 1800 円で 3 本購入) =  $(2600 + 2000 + 1800) - (1800 \times 3) = \underline{1,000}$  (円) となる。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年 月 日

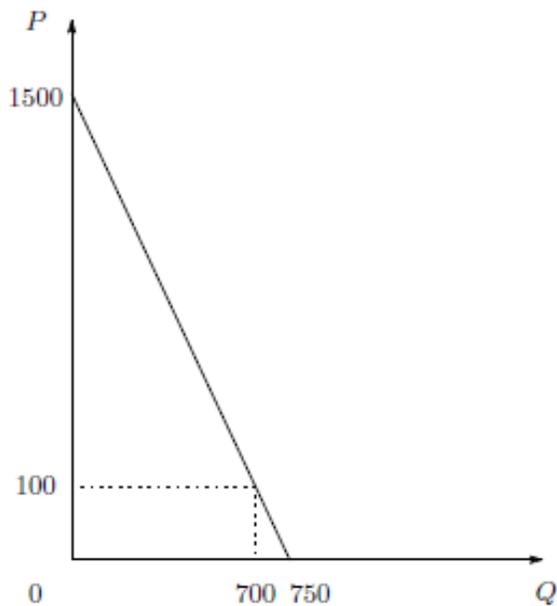
上図の需要曲線をみながら、以下の問いに答えなさい。折れ線グラフが、Aさんのビールに対する需要曲線である。今、ビールの価格が1本 2200 円である時、ビールを需要したことによるAさんの消費者余剰はいくらか。また、ビール 1 本の価格が 1500 円である時、ビールを需要したことによるAさんの消費者余剰はいくらか。

需要曲線が、 $P = -2Q + 1500$  ( $P$ : 価格(円)、 $Q$ : 需要量(個))であったとする。今、価格が 100 円の時、需要量は何個か。さらに、その時の総支出はいくらか。

**【解説】**

解説ビデオクリップ 

$P = -2Q + 1500$  の式に  $P = 100$  を代入すると、 $100 = -2Q + 1500$ 。よって、 $Q = 700$  (個) となる。  
 また、総支出 = 価格 × 需要量 =  $100 \times 700 = 70,000$  (円) とわかる。



**【関連問題】**

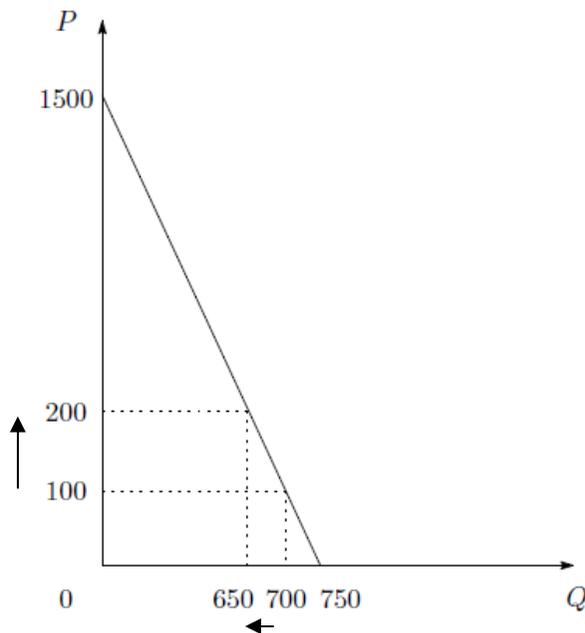
年    月    日

需要曲線が、 $P = -2Q + 1500$  ( $P$ : 価格(円)、 $Q$ : 需要量(個))であったとする。価格が 100 円から 200 円に上昇した時、需要量は何個増加するか、または減少するか。さらに、総支出はいくらか増加するか、または減少するか。

【解説】

解説ビデオクリップ 

$P = -2Q + 1500$  に  $P = 100$  を代入すると、 $100 = -2Q + 1500$ 。よって、需要量  $Q = 700$  (個) となる。また、総支出 = 価格 × 需要量 =  $100 \times 700 = 70,000$  (円) を得る。次に、 $P = 200$  を代入すると、 $200 = -2Q + 1500$  から、需要量  $Q = 650$  (個) を得る。また、総支出 = 価格 × 需要量 =  $200 \times 650 = 130,000$  (円) を得る。よって、需要量は  $650 - 700 = -50$  なので、50(個)の減少。総支出は、 $130,000 - 70,000 = 60,000$  なので、60,000(円)の増加。



【関連問題】

年      月      日

消費者(買手)の行動原理とは。

【解説】

解説ビデオクリップ



消費者の行動原理は、つまるところ予算の制約 (Budget Constraint) の下で自己の効用最大化 (Utility Maximization) を目指して、消費財の需要量を決定するということ。

上記のような行動原理は難しそうに思われるかもしれないが、少し考えれば、私たちの日々の行動を簡潔に説明しているに過ぎないということに気づくだろう。例えば、今月のバイト代が5万円だったとする。これが予算制約である。この制約の下で、携帯電話代、本代、衣服代、コンパ代など、学生生活を有意義なものにするため(効用の最大化)の支出がなされる。その際、各支出項目にどれぐらいのお金をつぎ込むかという選択を行っているのである。

【関連問題】

年    月    日

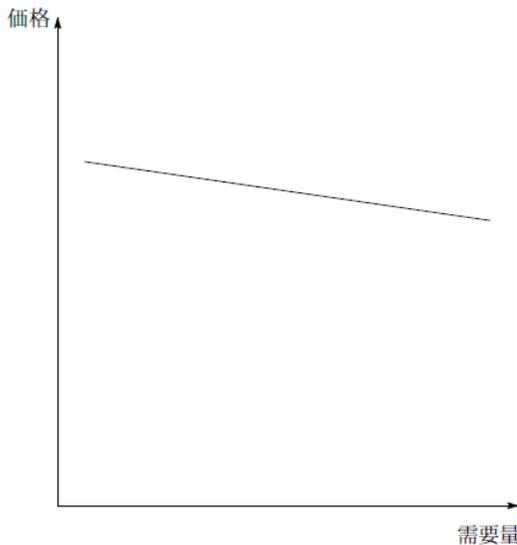
消費者の行動原理に当てはまる具体例を考えなさい。

「価格に対して弾力的な需要曲線」について説明しなさい。

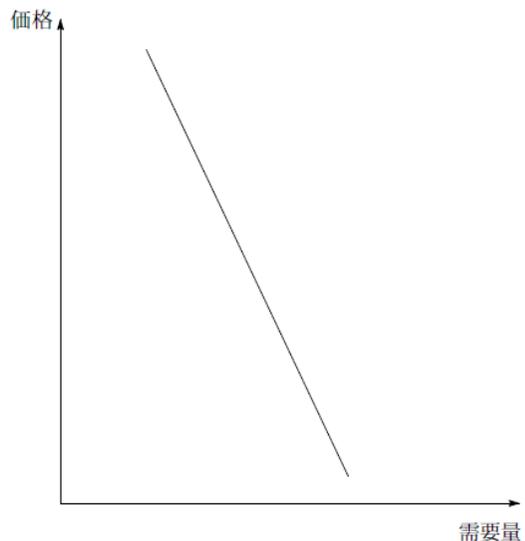
【解説】

解説ビデオクリップ 

例えば、価格の下落に対して大きく需要量を増やす場合、もしくは価格の上昇に対して大きく需要量を減らす場合、価格に対して弾力的 (elasticity) であると表現する。この場合需要曲線を描くと、傾きの緩やかな (水平に近い) 形状をしていることになる。逆に「価格に対して非弾力的 (non-elasticity) な需要曲線」は、価格の変化に対して需要量の変化が小さなケースで、需要曲線を描くと、傾きの急な (垂直に近い) 形状をしていることになる。



価格弾力的



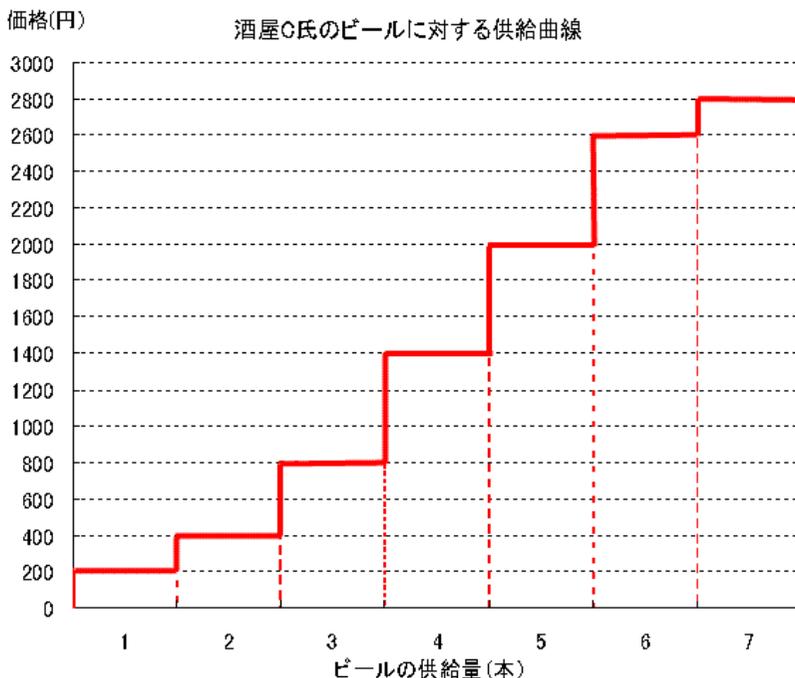
価格非弾力的

【関連問題】

年      月      日

価格非弾力的な需要の具体例を挙げよ。

下図の供給曲線をみながら、以下の問いに答えなさい。折れ線グラフが、酒屋C氏のビールに対する供給曲線である。今、ビールの価格が1本 2,500 円である時、C氏はビールを何本供給するか。また、ビールの価格が1本 800 円である時、C氏はビールを何本供給するか。



【解説】

解説ビデオクリップ



それぞれの価格水準での価格線が、供給曲線と交わる場所の供給量を適切に読み取ることがポイント。よって、2,500 円の時は5本、800 円の時は3本。

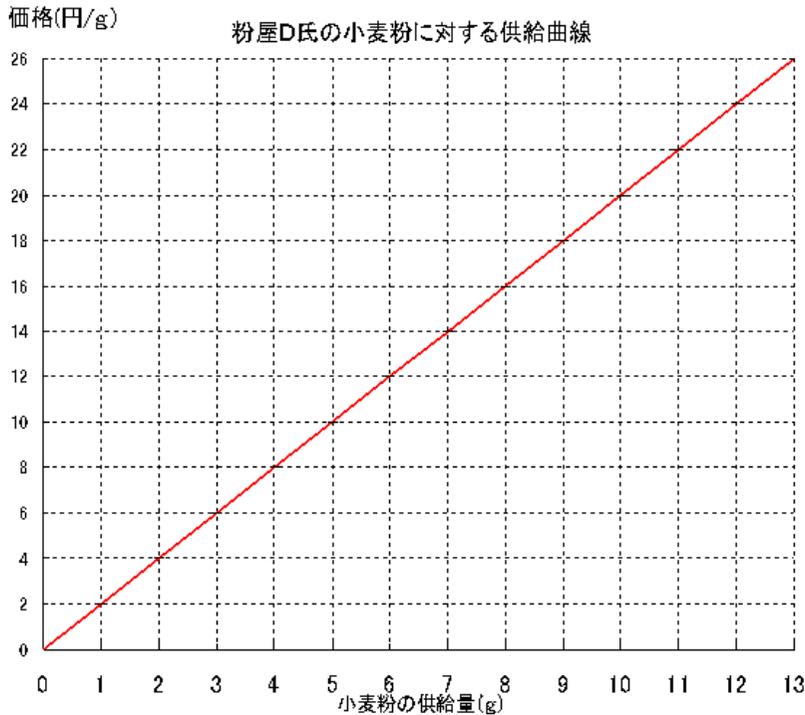
👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年 月 日

上図の折れ線グラフが、酒屋C氏のビールに対する供給曲線である。今、ビールの価格が1本 1800 円である時、C氏はビールを何本供給するか。

下図の供給曲線をみながら、以下の問いに答えなさい。右上がりの直線が、粉屋D氏の小麦粉に対する供給曲線である。今、小麦粉の価格が 1g 当たり 8 円である時、D氏は小麦粉を何 g 供給するか。また、小麦粉の価格が 1g 当たり 26 円である時、D氏は小麦粉を何 g 供給するか。



**【解説】**

解説ビデオクリップ

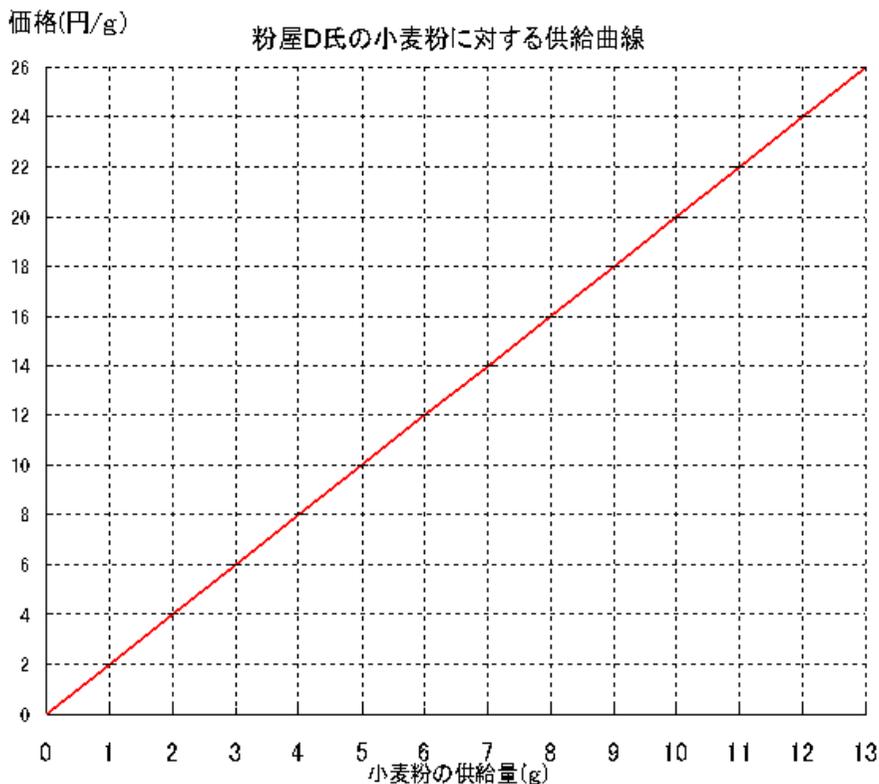
価格線と供給曲線とが交わったところの供給量を、適切に読み取ることがポイントである。8 円の時は 4g、26 円の時は 13g。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

**【関連問題】**

年      月      日

下図の供給曲線をみながら、以下の問いに答えなさい。右上がりの直線が、粉屋D氏の小麦粉に対する供給曲線である。今、粉屋D氏は生産した小麦粉 10g を市場に供給したいと思っている。D氏はいくら以上であれば、その小麦粉を売ってもよいと考えているか。



【解説】

解説ビデオクリップ

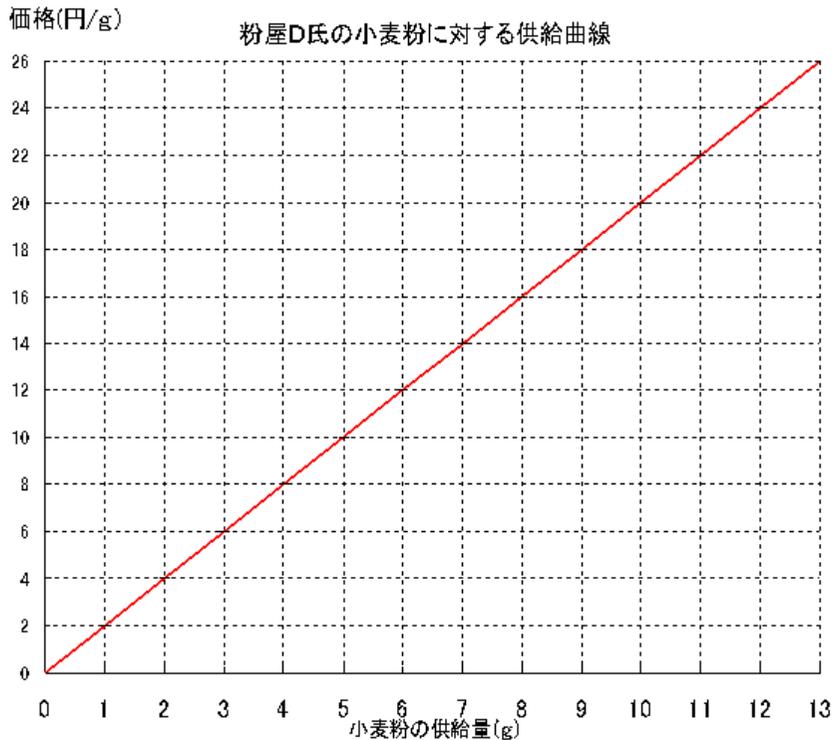
10gの生産量から垂直線を伸ばし、供給曲線と交わったところの価格は、20円である。20円であれば、10g生産し供給するのであるから、20円以上の価格であれば、D氏は小麦粉を供給する。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年      月      日

下図の供給曲線をみながら、以下の問いに答えなさい。右上がりの直線が、粉屋D氏の小麦粉に対する供給曲線である。今、小麦粉の価格が1g当たり14円である時、D氏の総収入はいくらか。また、小麦粉の価格が1g当たり22円である時、D氏の総収入はいくらか。



**【解説】**

解説ビデオクリップ

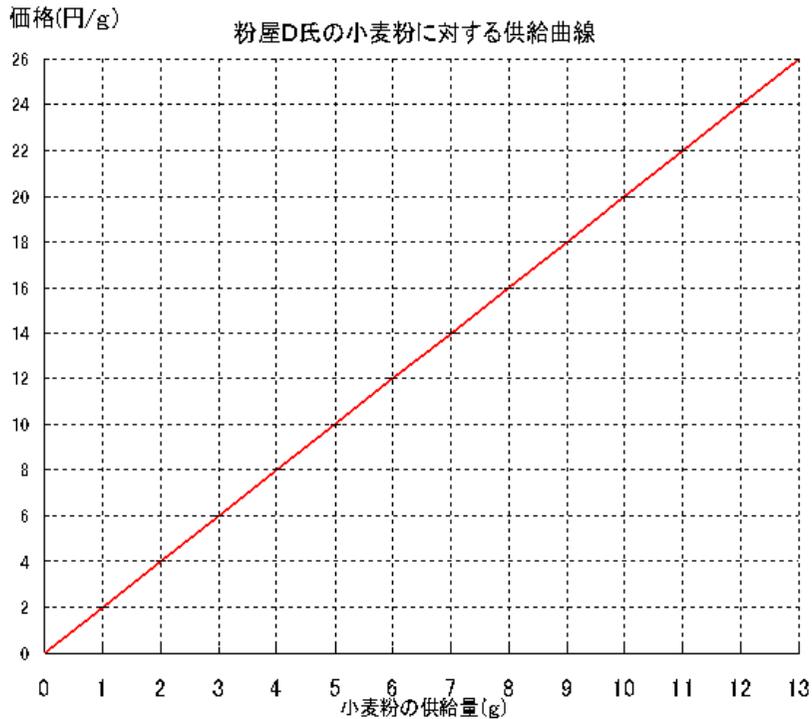
14 円の際は、供給量が 7gである。よって、総収入＝価格×供給量＝ $14 \times 7 = 98$  (円)。22 円の際は、供給量が 11gである。よって、総収入＝価格×供給量＝ $22 \times 11 = 242$  (円)。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

**【関連問題】**

年      月      日

下図の供給曲線をみながら、以下の問いに答えなさい。右上がりの直線が、粉屋D氏の小麦粉に対する供給曲線である。今、小麦粉3gの時の限界費用はいくらか。また、小麦粉12gの時の限界費用はいくらか。



【解説】

解説ビデオクリップ

それぞれの生産量における供給曲線の価格の水準が、その**限界費用 (Marginal Cost)** である。なぜなら、限界費用曲線がその企業の供給曲線であるから。よって、3gの時の限界費用は 6 円、12gの時の限界費用は 24 円 である。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

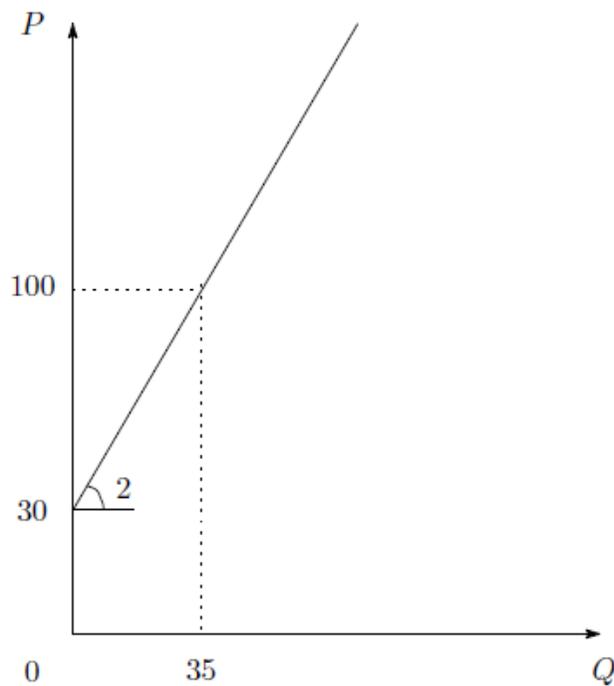
年      月      日

供給曲線が、 $P=2Q+30$  ( $P$ : 価格(円)、 $Q$ : 供給量(個))である。この時、価格が 100 なら、供給量はいくらか。また、そのときの総収入はいくらになるか。

**【解説】**

解説ビデオクリップ 

$P=2Q+30$  に、 $P=100$  を代入すると、 $100=2Q+30$  より、 $Q=35$ (個) を得る。よって総収入 (Total Revenue) = 価格×供給量 =  $35 \times 100 = 3,500$ (円)となる。



👉 自学自習:ミクロ経済学入門

**【関連問題】**

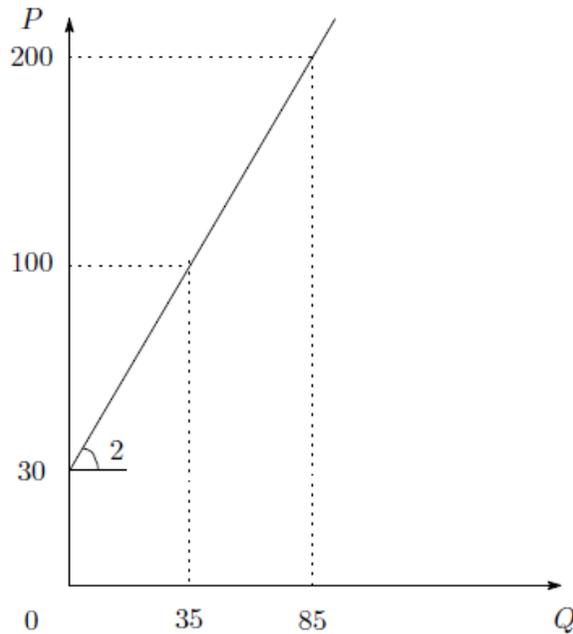
年      月      日

供給曲線が、 $P=2Q+30$  ( $P$ : 価格(円)、 $Q$ : 供給量(個))である。この時、価格が 100 から 200 に上昇すると、供給量はいくら増加するか、または減少するか。また、そのときの総収入はいくら増加するか、または減少するか。

**【解説】**

解説ビデオクリップ 

$P=2Q+30$  に  $P=100$  を代入すると、 $100=2Q+30$  から、 $Q=35$  を得る。この時、総収入＝価格×供給量＝ $100\times 35=3,500$  となる。同じように  $P=200$  を代入すると、 $200=2Q+30$  から、 $Q=85$  を得る。この時、総収入＝価格×供給量＝ $200\times 85=17,000$  となる。よって供給量は、 $85-35=50$  から、50 個増加することがわかり、総収入は、 $17,000-3,500=13,500$  から、13,500 円増加することがわかる。



👉 自学自習:ミクロ経済学入門

**【関連問題】**

年      月      日

企業(売手)の行動原理とは。

【解説】

解説ビデオクリップ



企業の行動原理は、自社の利潤(Profit) (=総収入 - 総費用)を最大化しようとすることである。

企業の行動原理として他の説もある。例えば、売上高最大化仮説、マーケット・シェア最大化仮説、経営者の満足最大化仮説、従業員の利益最大化仮説などである。しかし、それらのどの仮説も、一定の利潤を確保した上でという条件が必要になる。したがって、**利潤最大化**が企業の根本的な行動原理ということになるのである。

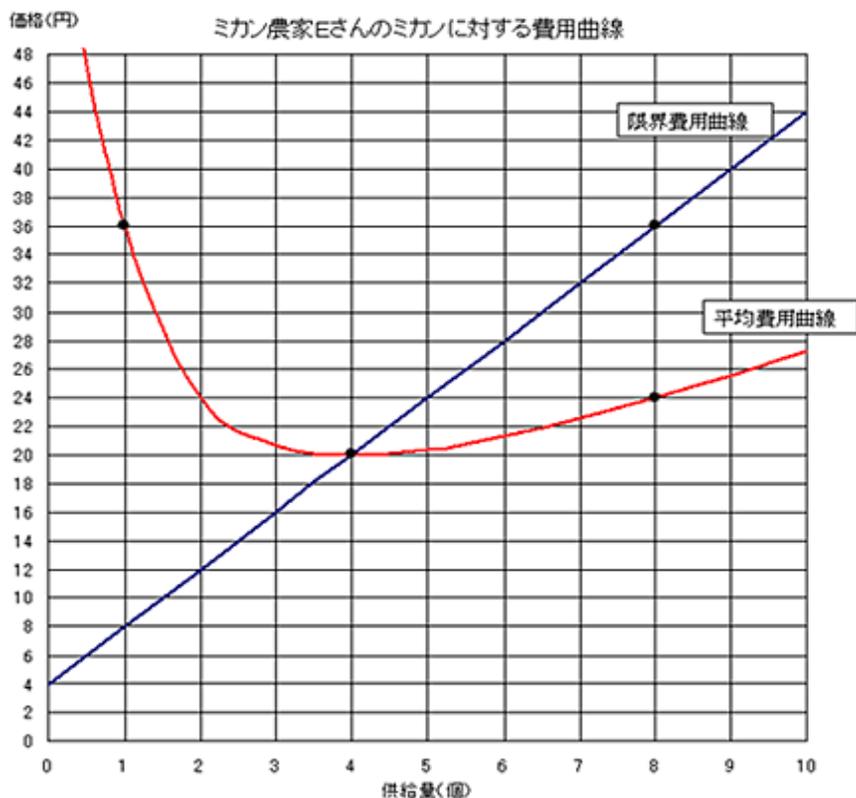
👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年      月      日

利潤最大化以外の企業の行動原理を挙げなさい。

下図の供給曲線をみながら、以下の問いに答えなさい。ミカン農家E氏のミカンに関する費用曲線が描かれている。U字型の曲線が平均費用曲線、右上りの直線が限界費用曲線である。今、ミカンの価格が1個36円である時、E氏はミカンを何個供給するか。また、この時E氏の利潤はいくらになるか。



【解説】

解説ビデオクリップ



限界費用曲線が、このミカン農家の供給曲線と考えられるから、価格36円における価格線と供給曲線とが交わるところの数量は、8個と読み取れる。ミカンを8個供給した時の平均費用は、グラフから24円とわかる。よって、 $\text{利潤} = \text{総収入} - \text{総費用} = (\text{価格} \times \text{数量}) - (\text{平均費用} \times \text{数量}) = (36 \times 8) - (24 \times 8) = (36 - 24) \times 8 = 12 \times 8 = 96(\text{円})$ 。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年 月 日

完全競争市場における特徴のひとつである「参入退出が自由」ということは、どういう意味か。

【解説】

解説ビデオクリップ



儲かると思えば市場 (Market) に自由に参入でき、儲からないと思えば市場から自由に退出することができるということ。

市場への旺盛な企業の参入は、経済のダイナミズムを生み出す。新しい企業の参入は、競争を激しくし、市場に大きな影響を与える。

しかし、参入が容易でない場合も存在する。例えば、ある財・サービスを生産するために不可欠の生産要素 (Input) が少数の経済主体によって独占されている場合、技術が特許によって守られている場合、参入のために巨額の固定費用 (Fixed Cost) が必要な場合が挙げられる。

そのような場合は、企業がひとつしか存在しない独占 (Monopoly) や少数の企業しか存在しない寡占 (Oligopoly) 状態になる。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年      月      日

1. 市場への企業の参入を妨げる要因にはどのようなものがあるか。
2. 参入に巨額の固定費用が必要な場合があっても、固定費用が参入障壁にならないのは、どのような場合か。

市場が超過供給の状態にあるとき、価格はどのようになるか。

**【解説】**

解説ビデオクリップ



市場で**超過供給 (Excess Supply)** の状態にあるということは、その価格で需要量 (Demand) が供給量 (Supply) を下回っているということ(つまり売れ残りが発生している)である。よって、価格が下落することで、需要量の増加と供給量の減少をうみ、需給がバランスするように調整される。

上のような現象は、日常生活の様々な場面で観察することができる。例えば、閉店間際のスーパーマーケットで、野菜や魚などの生鮮食品が 50%引きになっていることを見たことがあるであろう。これは、売れ残りが発生しているので、値段を下げることによって需要量を増加させ、その日のうちに売れ残りを解消させようという思惑からなされている。この措置によって売れ残りが解消すれば、需給がバランスしたといえるのである。なお、このスーパーマーケットの例では、供給量は一定となっており、その点だけが問題文と異なる。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

**【関連問題】**

年      月      日

市場が超過需要の状態にあるとき、価格はどのようになるか。

完全競争市場の均衡点を説明しなさい。

【解説】

解説ビデオクリップ



需要曲線と供給曲線との交点が**完全競争市場 (Perfectly Competitive Market)** における**均衡点 (Equilibrium Point)** となる。これは、基本中の基本。

#50 でも説明されたように、市場が超過供給(売れ残り)状態にある場合は、価格が下落し、その結果として需要量が増え、供給量が減少する。

逆に、市場が超過需要(モノ不足)状態にある場合は、価格が上昇し、その結果として需要量が減り、供給量が増加する。

以上のような過程を経て、超過供給も超過需要も最終的には解消され、需給一致という**完全競争均衡**が成立する。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年      月      日

完全競争市場が均衡に向かうまでの過程を説明しなさい。

完全競争市場において、均衡点で決まる価格のことを何というか。

【解説】

解説ビデオクリップ



完全競争市場の均衡点において決定される価格は、均衡価格 (Equilibrium Price)、より詳しくは完全競争市場価格と呼ばれる。

なお、均衡価格の下での資源配分は、ある経済主体の効用を減少させずに他の経済主体の効用を増加させることができないというパレート効率性 (Pareto efficiency) を満たしていることが知られている。

このように、完全競争均衡がパレート効率的であるという結果は、厚生経済学の第一定理 (the first theorem of welfare economics) とよばれている。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年      月      日

完全競争市場価格の下で決まる資源配分はどのような特徴をもつか。

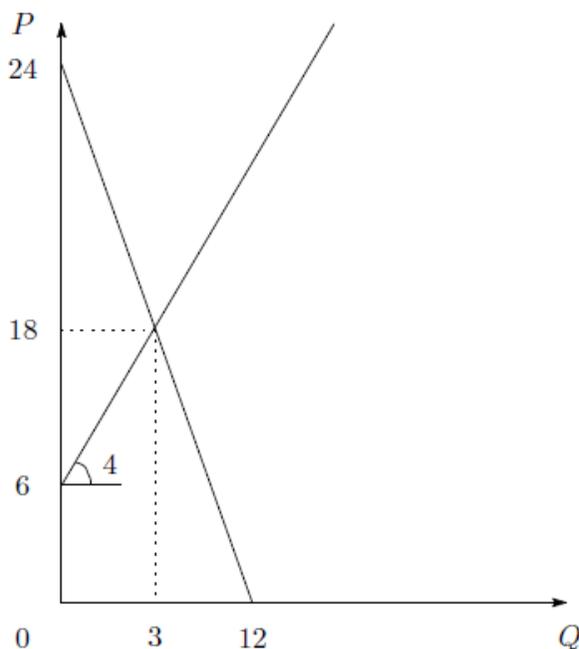
需要曲線が  $P = -2Q + 24$  であり、供給曲線が  $P = 4Q + 6$  である時 ( $P$ ; 価格、 $Q$ ; 数量)、完全競争市場における市場価格はいくらになるか。

【解説】

解説ビデオクリップ



$P = -2Q + 24$ 、 $P = 4Q + 6$  の 2 式の連立方程式を解けばよい。すると、 $Q = 3$ 、 $P = 18$  とわかる。



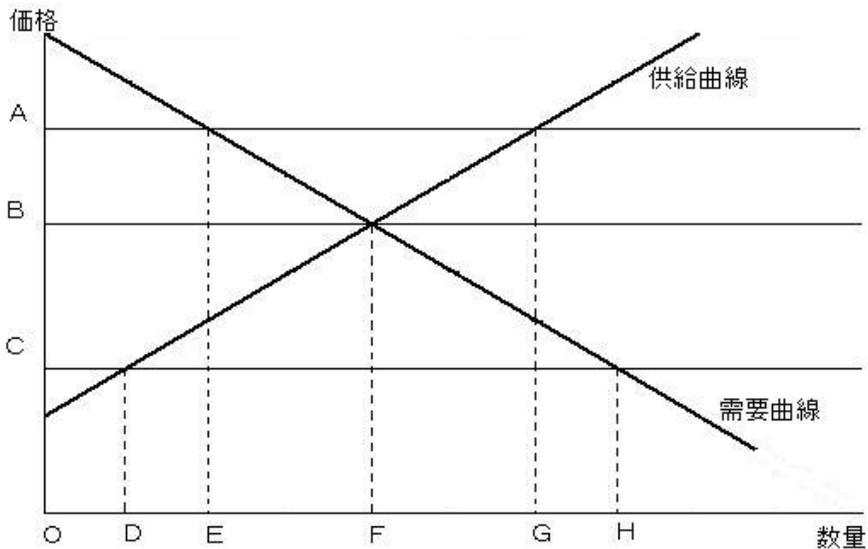
👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年 月 日

1. 需要曲線が  $P = -2Q + 24$  であり、供給曲線が  $P = 4Q + 6$  であったとする ( $P$ ; 価格、 $Q$ ; 数量)。今、需要曲線のみが、 $P = -2Q + 30$  へとシフトした。この時、完全競争市場における市場価格はどのように変化するか。
2. 需要曲線が  $P = -2Q + 24$  であり、供給曲線が  $P = 4Q + 6$  であったとする ( $P$ ; 価格、 $Q$ ; 数量)。今、供給曲線のみが、 $P = 4Q + 12$  へとシフトした。この時、完全競争市場における市場価格はどのように変化するか。

市場の需要曲線と供給曲線が描かれた下図をみながら、以下の問いに答えなさい。今、価格がBの水準にある時、市場の状況はどうなるか。



【解説】

解説ビデオクリップ



価格がBの時、需要量はF、供給量もFで、需給が一致する。この需給が一致する価格Bが、市場価格である。

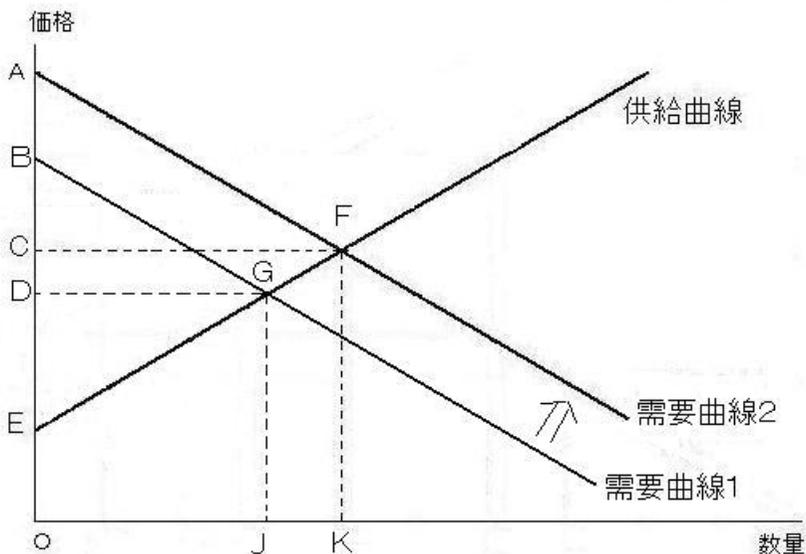
👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年 月 日

1. 市場の需要曲線と供給曲線が描かれた上図で、価格がAの水準にある時、市場の状況はどうなるか。
2. 市場の需要曲線と供給曲線が描かれた上図で、価格がCの水準にある時、市場の状況はどうなるか。

下図の市場の需要曲線と供給曲線をみて、以下の問いに答えなさい。今、需要曲線が需要曲線 1 から需要曲線 2 にシフトしたとする。この時、市場価格と均衡需給量は、どのように変化するか。



**【解説】**

解説ビデオクリップ



需要曲線が 1 から 2 にシフトすると、均衡点は、GからFに移動する。よって、市場価格はDからCへと上昇する。また、均衡需給量はJからKへと増加する。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

**【関連問題】**

年 月 日

- (公) 国民所得が増加したときの、需要曲線、供給曲線の変化として妥当なものは、次のうちのどれか。  
また、この財は、下級財ではないとする。
1. 需要曲線が左下にシフトする。
  2. 需要曲線が右上にシフトする。
  3. 供給曲線が左上にシフトする。
  4. 供給曲線が右下にシフトする。
  5. いずれの曲線も変化しない。

(平成 3 年地方上級 類題)



完全競争市場では、企業は市場で与えられた価格をもとに行動する。このような行動をとる経済主体は何か。

## 【解説】

## 解説ビデオクリップ



完全競争市場で決まる市場価格を所与(与えられたもの)として、自社の生産量を決定するような経済主体を、価格を受け入れ行動するという意味で、プライス・テーカー (Price-taker, 価格受容者)と呼ぶ。

独占・寡占市場においては、企業は価格支配力をもつので、プライス・メイカー (Price-maker, 価格設定者)として行動する。

価格支配力をもつ企業を**不完全競争企業 (Firm under Imperfect Competition)**とよぶが、それにはいくつかの種類がある。

まず、1社しか存在しない独占企業であるが、この企業の価格支配力は非常に大きい。

また、数社しか存在しないのが寡占企業であるが、この場合は独占企業よりは価格支配力が落ちる。

他には、多数の企業が存在し、参入障壁も存在しないので完全競争に似ているのだが、製品・サービスの質を差別化しているために、価格支配力をもつような企業を**独占的競争企業**とよぶ。

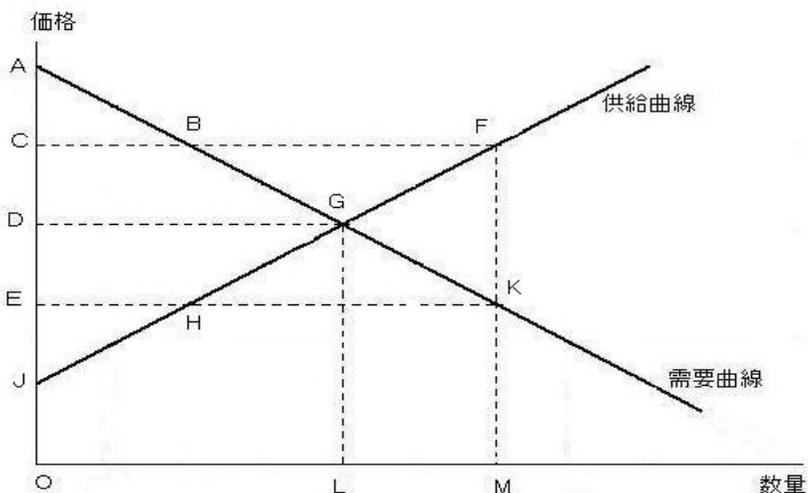
👉 自学自習:ミクロ経済学入門

## 【関連問題】

年 月 日

独占・寡占市場では、価格に関して企業はどのような経済主体となるか。

下図の市場全体の需要曲線と供給曲線をみながら、以下の問いに答えなさい。今、政府が価格Cで企業から製品を全て買い取る。その一方で、政府が価格Eで消費者に製品を販売するとする。この時、消費者の需要量はいくらか。また、消費者余剰はいくらか。



【解説】

解説ビデオクリップ



消費者が直面する価格はEであるから、需要量はMとわかる。点Mから縦軸に平行線を引き、需要曲線上の点Kを通る水平線より、価格線EKが定まる。価格線と需要曲線とで囲まれる面積が消費者余剰であるから、△AKEの面積とわかる。

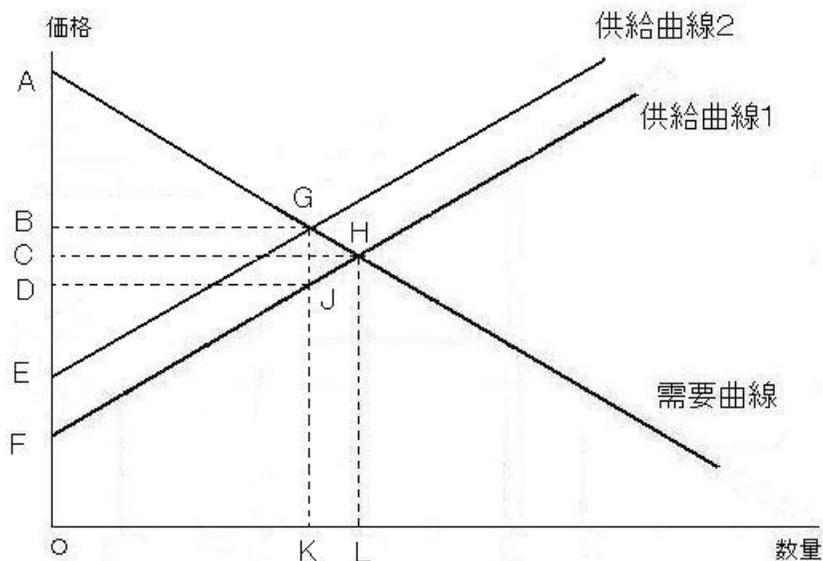
👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年 月 日

1. 上図の市場全体の需要曲線と供給曲線において、政府が価格Cで企業から製品を全て買い取る。その一方で、政府が価格Eで消費者に製品を販売するとする。この時、企業の供給量はいくらか。また、生産者余剰はいくらか。
2. 上図の市場全体の需要曲線と供給曲線において、政府が価格Cで企業から製品を全て買い取る。その一方で、政府が価格Eで消費者に製品を販売するとする。政府は企業からどれだけ買い取ったか。また、どれだけ消費者に販売したか。
3. 上図の市場全体の需要曲線と供給曲線において、政府が価格Cで企業から製品を全て買い取る。その一方で、政府が価格Eで消費者に製品を販売するとする。政府の財政負担は、図中のどこにあらわれるか。

下図の市場全体の需要曲線と供給曲線をみながら、以下の問いに答えなさい。今、政府が製品1単位当たり(B-D)円の間接税を課すとする。その結果、課税前の供給曲線が供給曲線1であったものが、課税後には供給曲線2にシフトする。この時、均衡点はどうか。また、市場での取引量はどうか。



【解説】

解説ビデオクリップ



需要曲線が動かないなかで、間接税が課税されることで、供給曲線が1から2にシフトする。すると、均衡点はHからGに移動する。その結果、取引量もLからKに減少する。

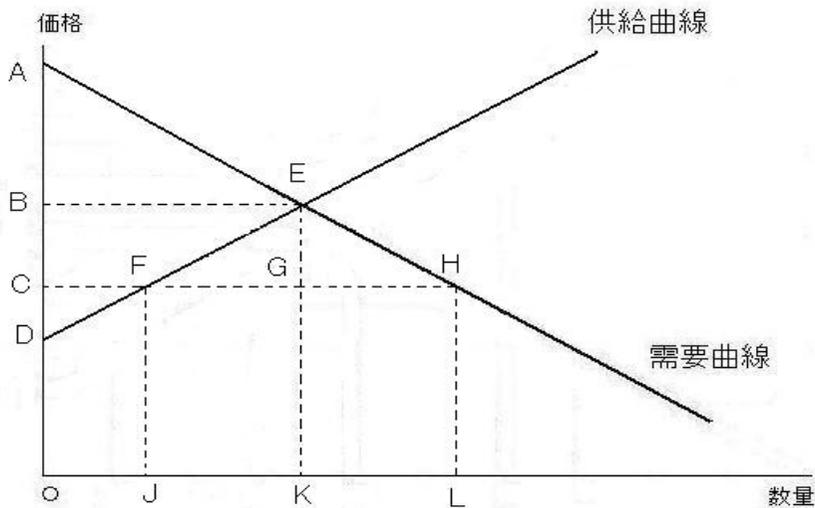
👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年      月      日

1. 上のような場合、消費者余剰はどのようになるか。
2. 上のような場合、生産者余剰はどのようになるか。
3. 上のような場合、厚生費用(死重損失)はどのようになるか。

自動車の国内における需要曲線と供給曲線が、下図に示されている。今、外国の自動車がC円で輸入できるとする。国内の自動車と外国の自動車には、品質の差が全くないとする。また、輸入にかかる費用は無視できるとする。この時、この国の自動車の国内での供給量はいくらか。また、輸入量はいくらか。



【解説】

解説ビデオクリップ



国内外の自動車に品質の差がなく、輸入にかかる費用が無視できるなら、国内の市場価格がC円となる。よって、国内の自動車需要量はL台となる。C円の時、国内の自動車企業は供給曲線に従い、J台生産し供給することがわかる(これが国内供給量)。同時に、国内需要量L台との差、すなわち(L-J)台は、外国から輸入することになる。

👉 自学自習:ミクロ経済学入門

【関連問題】

年 月 日

1. 上のような場合、政府によって貿易がとめられている状況では、この国の自動車の市場価格はいくらか。また、均衡需給量はいくらか。
2. 上のような場合、国内の消費者の消費者余剰はいくらか。また、国内の企業の生産者余剰はいくらか。
3. この時、この国の自動車の市場価格はいくらか。また、均衡需給量はいくらか。
4. この時、貿易によって、この国の社会的余剰はどれだけ増加するか。